



## 刊行にあたって

私は母校、鹿児島大学大学院歯学研究科で、「口腔がんの骨への浸潤、転移機構の解明」を研究テーマとして、博士論文を完成させました。口腔がんこそが生涯を捧げるテーマであると確信していました。

ところが、ひょんなことから口腔カンジダと関わるようになりました。それは1999年の秋、ドイツ連邦共和国のベルリンでした。当時奉職していました健康保険人吉総合病院が所属する全国社会保険基金連合会の選抜留学生として、恩師の杉原一正教授の推薦をいただいて、フンボルト大学シャリテ病院口腔外科へ留学しました。主任のライヒャルト教授から、HIV感染症患者の口腔病変の研究をテーマとしていただきました。当時、多剤併用療法（HAART）により死に至る病から慢性の感染症へと変化したHIV感染症患者の主な口腔病変は、口腔カンジダ症でした。

以来、口腔カンジダと口腔疾患の関連を研究テーマとしています。私が多少なりとも世間のお役に立つことができているとすれば、口腔カンジダを研究のターゲットとしていたからです。口腔カンジダは口腔常在菌ですので口腔の病変部から検出されるのが当然ですが、多くの口腔疾患と関連しています。私の一生を捧げても、その一部すら説明することはできないかもしれません。

今回、皆様のお導きにより、ささやかですがこれまでの成果を記す幸運に恵まれました。このうれしさはまさに筆者、望外の喜びです。本書がささやかなりとも皆様の臨床のお役に立つことができれば幸甚です。

共著の皆様、出版の関係各位に心からの感謝を捧げます。

本書を、患者の喜びを自分の喜びとしている臨床家諸氏と、筆者の研究を支えてきた両親、家族に捧げます。

2013年夏

上川善昭

